

AI と 私たちの暮らし

参加費無料

何が違って、何が変わらないのか

現在のめまぐるしいAI（人工知能）の開発の末、AIが人間の知能を超えるのも時間の問題となっています。いわゆる「シンギュラリティ（技術的特異点）」です。それによって起こるであろう様々な出来事や社会の変容について考えなければいけないというのが、『2045年問題』です。つまり、2045年にAIが人間の知能を抜くことで、人類の長い営みの歴史が大きく変わるのではないか、それによって様々な社会問題が起こるのではないか、ということです。最近のニュースで「AIに人間の仕事を奪われる」というセンセーショナルな言葉も飛び交い、なんだか恐ろしいことのように感じている方も多いかもかもしれません。

本当にAIは人間の知能を超え、万能の存在となりうるのでしょうか。AI時代によって、様々なものの見方や価値、哲学といった、より本質的なことを考え直す場面に人類は直面し、私達自身や暮らしの営みをより深く知るきっかけになるのではないのでしょうか。AIが変えうる私達の暮らしや考え方、また、AI時代の到来でも変わらないものについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



松尾 豊氏

東京大学大学院工学系研究科 特任准教授
人工知能学会倫理委員長

日時 2017年12月12日 | 火 |

18:00-20:00 受付開始 17:30

会場 日本橋浜町 F タワープラザ
3階ホール（裏面地図参照）

定員 120名

申込 事前申込制

（裏面参照 締切：12月8日（金））

略歴：1997年 東京大学工学部電子情報工学科卒業、2002年 同大学院博士課程修了。博士（工学）。同年より、産業技術総合研究所研究員を経て、2005年10月よりスタンフォード大学客員研究員。2007年10月より、東京大学大学院工学系研究科総合研究機構／知の構造化センター／技術経営戦略学専攻 准教授。2014年より、東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 グローバル消費インテリジェンス寄付講座 共同代表・特任准教授。2002年 人工知能学会論文賞、2007年 情報処理学会 長尾真記念特別賞受賞。2012年～14年、人工知能学会編集委員長を経て、現在は倫理委員長。